

1月12日の総務委員会の会議録（概要版）

○野津教育長

皆様、明けましておめでとうございます。福井委員長、吉野副委員長をはじめ委員の皆様方には、本年も変わりませず教育行政全般につきまして御指導、御鞭撻をいただきますようよろしくお願いいたします。

1点、江津地域の県立高校の在り方検討につきまして、昨年、議会でも幾度となく御審議をいただきました。教育委員会としましては、昨年末に御説明した案のとおり、2校を統合して新設校を設置するという方向で進めてまいるといことで方針決定をいたしました。詳しくは後ほど御説明いたしますが、委員の皆様から御意見をいただきました、子どもたちにとって魅力ある高校づくりにしっかり取り組んでいく所存でございますので、引き続き、都度都度、検討状況を御説明させていただきますので、よろしく御指導をいただきますようお願いいたします。

○委員

教育長に伺いたい。教育というのは、私は心だと思ってます。貧すれば鈍するじゃないけれども、何かその、人はいない、時間がない、そういうことから常に即物的になってるというか、話が。もっと教育というのは、やっぱり人間の心だと思っておるんですよ。やはり、先生になる資質といいますか、人間性といいますか、そういうものが非常に必要じゃないか、教わるほうも必要だけでも、まず、教えるほうだと思っらんですよ。

そういう面でいうと、教育というのは一貫性がないといけない。小さいときから、例えばふるさと教育もそうなんですけども、やっぱり一生懸命その子どもに教えていく、その子どもにどうしても分からせたい、そういうその先生の姿勢というものが、やっぱり一貫してないといけないと思っらんですよ。

だから、例えば、小さいときにふるさと教育とかやる。島根県はいいとこですよと、そういうことを言ってきた。ところが、今度は高校から、例えば、就職する、あるいは進学する、そうなったときには、島根県にはどれだけものがあるんだと、そういったときには、要するに、今まで島根県はいいとこなんだ、いいとこなんだ、いいとこなんだと、島根県にできれば残りなさいと、そういうニュアンスの話をしとったものが、あるときから、いやあ、いいとこ、いい就職して、いい大学へ行きなさいと、こうなってくるわけですね。だけでも、それは要するに、我々とすれば、ここへ行きなさいと羽交い締めにするものじゃなくて、どうやったらここへ残ってくれるんかという環境づくりを精いっぱいやっていくことだと私は思っらんですよ。ですから、大学だってそりゃ、島根県は2つしかない、もっと別の大学へ行ききたかったら、やっぱりそこへ行くんですよ。ただ、そういう形であっておっても、その子どもの中にずうっと筋が通ってるかといえ、先生から本当に情熱を持って、本当に愛情を持って、教わってきたんだと、それが島根県にしようが、どこにしようが、外国にしようが、とにかく一生懸命頑張れと、やがておまえも幸せな人生を送れと、そういうふうな思いをやはり伝えていく、そういったものが私は教育だと思

っております。

そういう面で、あんまり、確かに今、大変だと思います。時間もない、先生がいないから時間もないということだと思っただけけれども、そういう物理的なものは精いっぱいその部分でやらないけんけども、だからといって、質を落としちゃいけないと私は思っています。どうであろうと、教育の質とは一体何かといえ、心だと思っただけですよ。そういう面で、どんなことがあろうと、ここは絶対外しちゃいけない。あくまでも教えるほうの、特に教育の心、先生の子どもを思う愛、そういうものをまず常に意識をしながら進んでいかなきゃいけない、どういうふうな枠組みであろうとも、その部分がまずきちっと固まってないといけないと思っただけですが、教育長の御意見を承りたいと思います。

○野津教育長

例えば、今の資料の2ページのほうを見ていただきますと、ワーク・ライフ・バランスが取れない要因として、上位を申し上げますと、子どもの学習指導であったり、校務分掌というのは、生徒指導であったり就職指導であったり、あるいはICT活用、図書館の活用といった、子どもにとって、どのように学校横断的に進めていくのが良いかを担当しているということ、そして、3つ目は、個別の子どもたちの生活指導であるとか、そういったことでもあります。

教員は、総じて申し上げますと、このように子どもたちをどうやって育てていくのかということを実際に考え、責任感を持っているからこそ、それが多分、自分の思ったより十分にできてないと感じているのではないかと。多様な子どもたちがいます。大学受験で落ちる子もいます。自分の進路が必ずしも思いどおりにいかない子どもたちがいる。そして、ふだんから学習内容を十分に理解できない、習得できない子どもたちもいる。結果として十分なことができてないということが、非常にやはり負担になっているといえますか、心に重く受け止めているというふうには、私はこのデータを捉えております。先ほど説明でも言いましたが、責任感の裏返しであろうと考えております。すなわち、もっとできる、もっと一生懸命やって、もっと効果を上げたいと思っただけで、結果として自分の理想、自分の考えていること、教員となって、やりたい、子どもたちのための学習支援、生活指導ができていないと。やはり、子どもたちのいろんな環境もございまして、もう一つはやはり時間的な問題として、自分がそういった能力を、スキルを上げていく、こういった機会であるとか時間があまりない、結果として成果が、自分が思ったように上がってないということの裏返しではないかと思っただけです。ということは、教員一人一人は、しっかりそういったことに向き合っていると思っただけです。

もう一つ、時間が足りない要因としては、昨年来申し上げますように、全体的に学習指導要領が盛りだくさんで、やることがたくさんある、取り組むべきことがたくさんあるということで、もう少しそれを減らして、いわゆる教員の業務の本丸をもう少し減らして、時間を生み出して、余裕を持って子どもたちの指導に当たる、こういった対策が必要であろうということで、学習指導要領の見直しなどの要望をはじめたところでもあります。

もう一つ、18ページの資料の就職内定状況でございますが、今年度、全体が減っている、就職希望者が減っている中であって、県内内定者は現時点で増えていると。特に、石見でありますとか、隠岐であるとか、そういった地域で増えているということは、やはり

子どもたち自体が、県内を希望している子どもたちが増えてる、そして、それを実現させるために、いろんな関係機関の協力、あるいは企業も受入れの環境を整えはじめています。こういった取組の効果があって、こういった成果が出ているんだろうと思います。やはり、今言ったように、一貫して、ふるさと教育からはじまったものが実現できるように、進学は定員がありますので、県内オーバーしたものは県外に行かざるを得ませんが、それらも、卒業時も含めて、就職のところで、県内を希望する者が増えている、県内大学に進学している者も現実的に増えている、そういった効果を出しています。子どもたちの成長を、要は小学校から高校まで一貫した取組の成果としてこういったことが現れているんじゃないかと、そして、一貫してやっている、一生懸命やっているという成果も、先ほど冒頭に説明したように現れているんじゃないかというふうに思っています。

それが、より成果が上がるように、これはやはり手法でありますので、いろんな人を頼る、あるいは、予算を認めていただいて外部の業務として出していくと、こういったことをしっかり進めながら、引き続き、一生懸命取り組んでいる現場の教員がきちっと思いを果たせて、成果が上がって、そして子どもたちの人生の選択肢に大きく、いい影響を与えていくと、こういった教育に、これからも引き続き取り組んでいきたいというふうに考えております。

○委員

今の教育長の答弁を聞くと、ほんならおおむねうまくいってるんじゃないかと、こういうことだわね。だから、おおむねうまくいってる、けどもいろいろ話を聞くとストレスがたまってるんだということは、もっともっとやりたいなと、いや、その向上心はいい。ただ、私が言いたいのは、そこまではうまくいっていると。さらにやりたいと思ってる。けど、その中に、あまりにも物理的なテクニカルなものに走り過ぎるなと私は言っとるわけですよ。あくまでも、そこまではうまくいっとるんだったら、やっぱり教育は心だから、心は絶対に忘れちゃ駄目だと、こう言っとるわけだ、絶対に。だから、8割できたから、そりゃあ100が一番ええでしょう。けども、なかなか100はない。けども、今、8割までできたというプライドがあるんだったら、もっと頑張ってやればいいんだわね、今のやり方を。けども、その中に、話のそこまで来た、レベルまで来た教育委員会として、心とか人とかっていうものが出てこないから、俺は言ってるわけ。やはり、その部分を絶対に忘れちゃあ駄目だと、こういうことです。

○野津教育長

心の教育につきましては、これまでも何度か答弁いたしておりますが、結果的に言いますと、それを成果が上がっているとか、指標がなかなかありませんので、個別具体的に御説明するというのはなかなか困難でございますけども、一つは先ほど申し上げたように、県内志向が高まっているというのは一つの心の教育の成果だろうと思っておりますし、おっしゃるとおり、人が高校を出ても、あと80年、これから生きていく時代において、いろいろな生活環境のステージが切り替わる。経済的なもの、労働的なもの、家庭環境などいろいろ切り替わっていく中で、しっかりした自分の思いであるとか、人への思いであるとか、地域への思い、あるいは国、あるいは世界平和等というような思いというのがとても

ベースになって、それはなかなか大人になって急に変わることはないので、やっぱり小さな頃からしっかりそういった情操的なものを磨いて、築き上げて、それでいろいろな社会に出て生活してほしいというふうに思っています。心の教育、そういったことは、これからも、何度も申し上げますが、なかなか形とか結果には、数字には表れるものではありませんけども、とても大事な要素だと思っておりますので、そういったことは引き続き現場、あるいは管理職の中で共有しながら、進めていきたいと考えております。

○委員

就職なんかが、例えば、8割どころ、大体思うところへ行っただけ。だからその部分については、それは、県内就職させようということについては成功だわね。だけど、だから教育は成功したのかということなんだわね。要するに、きちっと、島根県にしようがどこへ出ようが、やっぱり島根県で受けた教育っていうものが心の中にずうっと残ってだね、それが生きていく中で一つの宝になっていかないけんと思うんですよ。そういう面では、たまたま島根県に残ったかもしれんけど、また出ていくかもしれん。だからその部分は、ただ残るということに対しては、そこの部分は成功したと思っていいかもしれんけれども、本当の成功かどうかっていうものは、やはり教育というものに本当に芯が通っているかどうか、心が通っているかどうかっていうことは、逐一でだわね、教育する立場からやっぱりチェックせないかん、そのことを意識せないけんと思はうんですけどね。終わり。

○野津教育長

おっしゃることよく分かっております。現場現場でしっかり確認しながら進めていきたいと思っておりますし、やはり、島根で育った子どもは、前にも申し上げたことがありますけども、どこに住んでいようが、周りの人と一緒になって、地域というものの中でしっかり生きていくと、こういったことができる人、こういったことを先導することができる人、こういった人になってほしいというふうに思っています。それがふるさと教育の最大の成果になろうかというふうに思っております。